

平成23年度「教育研究支援プロジェクト経費」成果報告書

プロジェクトチームの代表者 コース等名学校・学級経営コース氏 名 佐古 秀一

プロジェクトの名称	教育委員会・学校と連携した教育改善に関する実践研究 --鈴鹿市教育委員会との協働的關係による包括的な学校支援の展開--	配分 予算額	576,000円
プロジェクトの概要	<p>本プロジェクトは、鈴鹿市教育委員会と本学との連携協定に基づき、鈴鹿市の公立学校を対象とした教育改善（とくに中学校を中心とした学力保証）に関する実践とそれにかかわる研究を鈴鹿市の教育委員会及び学校と鳴門教育大学が協働的關係を構築しながら、展開するものである。本研究の主要なねらいは、</p> <p>①全ての生徒に対する学力保証を実現するという理念のもとで、大学が学校、教育委員会に対する支援を実施することにより、学校の教育力を高めることをねらいとする（学校の教育改善への貢献）。</p> <p>②教育委員会及び学校と協働して、教育改善を遂行する機会を確保することによって、学校教育改善に関する実践とそれに関する研究を蓄積することをねらいとする（「地域」の学校群を対象とした教育実践研究の推進と成果の蓄積）。</p> <p>③教育委員会及び学校と大学との連携構築のためのモデル構築をねらいとする（教育委員会及び学校と大学との連携構築に関する実績の蓄積と連携構築モデルの形成）である。</p> <p>以下の支援を大学側が行う。</p> <p>①学校支援：授業改善、校内研修改善 ②学校経営支援：学校経営計画、学校評価等の改善 ③生徒指導教育相談支援：不登校、学校適応等に関する指導改善 ④教育行政支援：指導資料等の改善、研修講座等の改善</p> <p>本プロジェクトは、「社会に開かれた大学」という本学の理念に沿うものであり、かつ本学の社会貢献を広くアピールすることのできるプロジェクトであるといえる。同時に学校教育に関する実践研究の推進という本学の学術面での役割にも適合するものである。</p> <p>以上の連携活動の内、本プロジェクトは、支援対象校（H23年度の場合、4中学校）の生徒、教職員、保護者を対象とした調査を実施し、鈴鹿市における学校教育の現状と、支援の効果を明らかにすることを主たるねらいとするものである。</p>		
成果の概要	<p>H23年度は、支援対象校として4中学校が設定され、大学教員の訪問指導については、1中学校（拠点校）に対して2名の担当教員が、それぞれ年間3回程度実施した（これについては本経費以外の経費で執行）。また、学校に対するアセスメント調査を、拠点校の全生徒（総数1882名）については、2回（延3764名分）、教職員（総数136人）については2回（延272名分）、保護者（総数1882名）については、1回実施した。</p> <p>本プロジェクトの直接的な効果</p> <p>①地域の教育改善に対する貢献：本学の社会的貢献 本学教職大学院教員が鈴鹿市教育委員会、当該学校と連携することにより、授業改善、生徒指導・教育相談の分野における改善が図られた。本プロジェクトが、本学が有する知見を社会に還元することのできる機会となり、本学の社会連携、社会貢献を推進することができた。</p> <p>②教育実践研究の推進 市全体の学校運営、教育活動の改善に多様な教員が関与できる機会を確保したことにより、授業研究、生徒指導、学校経営等の分野における実践研究が大きく促進された。例えば、鈴鹿市教育研究会委託事業として行われた中学校の教育研究に対して支援することも実現し、当該中学校のみならず、校種を問わず鈴鹿市内の学校に成果を公表することができた。</p> <p>③教育委員会・学校と大学の連携構築 本プロジェクトは、教育委員会・学校と大学がそれぞれ協力し合いながら、地域の学校の教育改善という課題に取り組んでいる。遂行とその成果は、教育委員会・学校と大学の組織的な連携構築のひとつのモデルを提供することにつながっている。</p> <p>すでに鈴鹿市からは、平成22年度と23年度に、本学教職大学院に現職教員の派遣がなされている。平成24年度も現職教員1名が入学している。また、本プロジェクトをきっかけに教職大学院の取り組みを知ることにより、平成24年度には、教員養成特別コースにも鈴鹿市出身者の入学があった。これらのことは、間接的成果として、本学教職大学院への現職教員派遣の可能性の拡大を図ることができた。</p> <p>鈴鹿市教育委員会に対して平成23年度の取り組みに関し意見聴取を行ったところ、拠点校における大学教員によるサポート活動は、好評であったとの報告があった。また、平成23年度対象校4校の内、継続的支援を求める中学校が3校あることも、本プロジェクトの成果の一端を示すものと考えられる。</p>		

- (注) 1. 箇条書き等により簡明に記入すること。
2. 概要については、800字程度にまとめること。
3. 研究協力者として院生等が参加している場合、院生等の報告書があれば添付すること。
4. なるべくパソコン等で作成願います。

区 分	品 名 等	規 格 等	数 量	単 価	金 額	備 考
備 品 費				円	円	
小 計						
消 耗 品 費	シャープペン チューブファイル トナー トナー 廃トナーボックス 感光体ユニット 感光体ユニット 図書・雑誌		1 15 1 1 1 1 3 1	431 787 18,264 28,329 2,236 26,092 17,146 26,460	431 11,805 18,264 28,329 2,236 26,092 51,438 26,460	
小 計					165,055	
そ の 他	資料等整理集計補助 謝金 郵送費 後納郵便料 宅急便 旅費 鈴鹿市教育委員会訪 問 連携校訪問 連携校訪問	質問紙調査データ 収集・整理（4校分 ）	340時 間分 1回 1回 6回 1回 1回	800 7,640 945 14,500 14,330 28,730	272,000 7,640 945 87,300 14,330 28,730	
小 計					410,945	
合 計					576,000	